

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 災害派遣医療チーム体制整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,137 千円 (前年度予算額： 5,314 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,314	0	0	0	0	0	0	0	5,314
要求額	5,137	82	0	0	0	0	0	0	5,055
決定額	5,137	82	0	0	0	0	0	0	5,055

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・大地震や航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、医療活動を行う災害派遣医療チーム(DMAT)の整備を行っている。
- ・災害時における医療の初動の遅れによる被災傷病者の救命率の低下を防止するため、DMATの体制強化を図るための連絡会議、研修会を開催するほか、災害現場で危険にさらされる隊員に対する保険料を負担する。
- ・局地的な災害が発生した場合、DMATの活動経費を迅速に支弁することが可能な体制を整備することで、DMAT活動を支援する。
- ・DMATによる広域医療搬送活動を円滑に実施するため、広域医療搬送拠点臨時医療施設(SCU)の運営に必要な設備を整備する。

(2) 事業内容

- ・現場で危険にさらされる隊員に対する保険料
- ・DMAT連絡会議及びDMAT研修の開催
- ・局地的な災害が発生した場合のDMAT活動経費を支弁
- ・広域医療搬送拠点臨時医療施設(SCU)の運営に必要な設備の整備

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・岐阜DMAT隊員は、DMAT指定病院から推薦のあった者を県が登録を行い、また、災害時には、県からの要請に基づき出動する。岐阜DMAT隊員が災害現場で安心して活動するための保険料や、災害救助法が適用されない局地的災害の発生時に出動した際に執行される活動経費のほか、DMAT連絡会議や研修会によりDMATの連携強化や技能の向上に貢献するものであり、県負担は妥当。
- ・広域医療搬送拠点臨時医療施設（SCU）の運営に必要な設備の整備については、国庫補助金（医療提供体推進事業費補助金）を活用する。（補助率：国1/2）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	168	連絡会議旅費
需用費	190	連絡会議消耗品費、会議費
役務費	3,665	保険料等
委託料	1,074	災害時のDMAT活動経費、研修委託費等、飛騨SCUに係る消耗品
使用料	40	連絡会議会場借上料
合計	5,137	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

岐阜DMATの活動が続く限り実施。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・DMAT研修、連絡会議を開催し県内の災害拠点病院に整備されている岐阜DMATの連携体制と技能の向上を図る。
- ・災害時のDMAT活動を支援するため、保険料の負担や、必要な設備の整備を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①DMAT研修、 連絡会議等の開催 回数	0 (H18)	6	5	5	5	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により未実施。
指標① 目標：5回 実績：0回 達成率：0%	
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・MCLS（多数傷病者への対応標準化トレーニングコース）を開催し、医療機関職員、消防関係機関職員等の災害現場での初動対応に係る知識や応用力の工場を図った。 ・DMAT連絡会議を開催し、DMATの体制強化のための意見交換等を行った。
指標① 目標：5回 実績：6回 達成率：100%	
令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・MCLS（多数傷病者への対応標準化トレーニングコース）を開催し、医療機関職員、消防関係機関職員等の災害現場での初動対応に係る知識や応用力の工場を図った。 ・DMATや災害医療コーディネーター等が参加する「災害医療連絡会議」を開催し、災害医療体制強化のための意見交換等を行った。
指標① 目標：5回 実績：6回 達成率：100%	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	DMA T隊員が災害現場で安心して活動するための保険料や活動経費の他、DMA T連絡会議や研修会によりDMA Tの連携強化や技能の向上に貢献するものであるため、その必要性は高いと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	毎年度岐阜DMA T研修を複数回実施し、県内の災害拠点病院の災害医療関係者の対応能力の向上を図ることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	岐阜DMA Tの連携機能及び体制の強化を目的として、連絡会議と研修を効率的に実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 過去に行った災害拠点病院の設備整備や広域医療搬送拠点の整備といったハード整備に併せて、これらをDMA T隊員や災害医療関係者で運用できる体制を構築するため、継続的な訓練等を実施する必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 災害派遣医療チームは、災害時の急性期を担う重要な組織体制であるため、今後も当該事業を継続していく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】